

小諸東中学校の被爆アオギリ 2 世

平成 17 年度卒業生の修学旅行は、総合的学習の平和教育の一環として広島市へも行って来ました。そのとき訪れた平和記念公園で「被爆アオギリ 2 世」の苗木をいただてきました。帰校後、学年生徒会のメンバーを中心に、その苗を植樹しました。寒い小諸の地で育つか心配でしたが、幸い枯れることもなく成長し現在に至っています。

被爆アオギリについて

1.被爆前のアオギリ

爆心地から約 1.3km 離れた、中区東白島町の広島通信局の庁舎（現在の日本郵政グループ広島ビル。以前の中国郵政局）の中庭にありました。

2.熱線・爆風の影響

爆心地方向にさえぎるものがなかったため、熱線と爆風をまともに受けました。そのため枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けました。

3.奇跡的な再生

枯れ木同然だったこの木は、翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で虚脱状態にあった人々に生きる勇気を与えました。

4.平和記念公園への移植

中国郵政局の建替えに伴い、1973（昭和 48）年 5 月、現在の場所へ移植され、原爆の被害を無言のうちに語り続けています。（広島市 冷え和記念公園HPより作成）

被爆アオギリ 2 世について

旧広島通信局の中庭で被爆したアオギリは、爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、樹皮が傷跡を包むようにして成長を続け、焦土の中で青々と芽を吹きました。その後、被爆アオギリは昭和 48 年(1973 年)に平和記念公園に移植されましたが“平和を愛する心”、“命あるものを大切に作る心”を後世に継承するため、この被爆アオギリが実らせた種を発芽させて育て、成長した苗木を「被爆アオギリ二世」と名付けて配付しています。（東京都国立市のHPより）